

“言語聴覚士”が 『心理学』を学びたい人 におすすめの理由！

◆心理学を活かせる医療職「言語聴覚士」



「医療系ってなんか
難しそう……、
文系だから勉強について
いけるか不安だし……。」

そんな心配、大丈夫！

“言語聴覚士”は少人数制で
一人ひとりしっかり学ぶことが
できるリハビリ専門職です！

◆言語聴覚士ってどんな職業？

言語聴覚士とは、幅広い世代の患者さんの
「話す」「聴く」「食べる」に寄り添うリハビリテー
ション関連職のなかでも比較的新しい分野です。
ことばによるコミュニケーションには言語、聴覚、
発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、
病気や交通事故、発達上の問題などでのこのような
機能が損なわれることがあります。

これらの問題により、ことばによるコミュニケーション
が上手くできない方を対象とすることが多いため、人の
心に寄り添い、気持ちを読み取りサポートをするため、
言語聴覚士には「心理学」の知識が重要となります。

例えば……

ことばを話すことができない患者さんに関わる場合。

<病気の影響？> <心の問題？> <発声に問題がある？>
など…様々な可能性を考えて患者さんに寄り添います。
また、ご本人だけでなく、そのご家族の想いや不安な気持ちを
読み取るためにも人の心を理解する技術（心理学）が必要です！

言語聴覚療法学専攻で学べる 心理系科目を一部紹介！



◇心理学

人のこころの仕組みを解明します。
一人一人の思いに寄り添うことは、とても難しいことですが、
だからこそ魅力的です。
観察力やコミュニケーション力、人と人をつなぐ調整力を学びます。

◇学習心理学

ベルが鳴ると餌がもらえることを知った犬はベル音だけで唾液が出る
「パブロフの犬」は有名ですね。良い経験や体験を多く持つことで学
習は楽しくなり、結果は向上しやすくなります。
人の言葉の習得課程でもこれを応用すると効果的です。

◇音響・聴覚心理学

身の回りには様々な音があふれています。音響学では、音声や音の
性質、分析方法を学びます。聴覚心理学は、人の聴覚システムや
聴覚体験、聴覚認知について学びます。学びを通して、音声や日常生
活音の認識力、分析力を磨くことができます。

◇認知心理学

認知とは知覚、記憶、思考、言語、学習などを指します。
「推しのライブチケット発売日を調べて、間違いなく購入する。」
こんな日々の活動は私たちの認知の働きによって実現しています。
よく考えればすごいことです。このすごい働きについて学びます。

◇グループダイナミクス

人は独りで生きていくことができない生き物です。
学校や仕事、社会など集団の中で様々な活動を行います。
医療現場でも、様々な職種とのチームアプローチが大切です。
グループダイナミクスで学ぶ集団の特性の理解は、その中で自分が
どのような行動を取れば良いのか、より良い人間関係を構築する上
での最適解を見つけることにもつながります。